

1 学校研究全体計画

1. 令和5年度 研究主題

自分の考えをもち、伝え合い、深め合う子の育成
～「わかった、できた」を実感できる算数授業を通して～

2. 研究主題設定の理由

(1) 学校教育目標との関わりから

本校では、「豊かな知性と人間性を備えた、たくましい犬丸っ子の育成」という学校教育目標のもと、「考える子」「助け合う子」「たくましい子」の育成を目指している。

「自ら学ぶ意欲をもち、自己も他者も大切にできる子」というめざす児童像の具現化のために、一人一人が自分の考えをもち、学び合いを通してわかる喜びを感じられる教育活動を推進していく。そして、「問題の解決に向けて見通しもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする」という主体的に学ぶ児童をめざしていく。そのために、まずは自分の考えをしっかりともち、思考を深めていく力、そして既習の知識や技能を活用して自分で問題解決していく力をつけていくことが必要であると考え、今年度の研究主題を設定した。

(2) 児童の実態から

新学習指導要領では、児童が未来を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成するための「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が求められている。その実現のため、「学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組む学び、協働・対話を通じ、自己の考えを広め深める学び、また、習得・活用・探究という活動の中でより深く理解し課題を見い出し、解決していく学び」をめざしていかなければならない。

昨年度は、「授業ユニバーサルデザイン」の焦点化に重点を置き、「ゴールの明確化」や「問題提示の工夫」や「発問の工夫」に取り組んだ。

成果として、算数科の児童アンケートにおいて、「わかったことやできることが増えた」という問いに対して、肯定的評価をしている児童が90%を超えた。このことから、授業を通して力がついた・できるようになったという肯定感を持っていることが分かった。

しかし、単元末テストの知識・技能の得点率を見てみると、「算数の学習内容を十分に理解できておらず、定着が図れていない」ことが明らかになった。

また、教員側にも「1問目に時間がかかりすぎる。課題までに時間がかかってしまう。時間をかけるところと流していくところの判断が甘い」などが原因で、適用題や振り返りまで到達できないという課題が残った。

そこで、今年度は

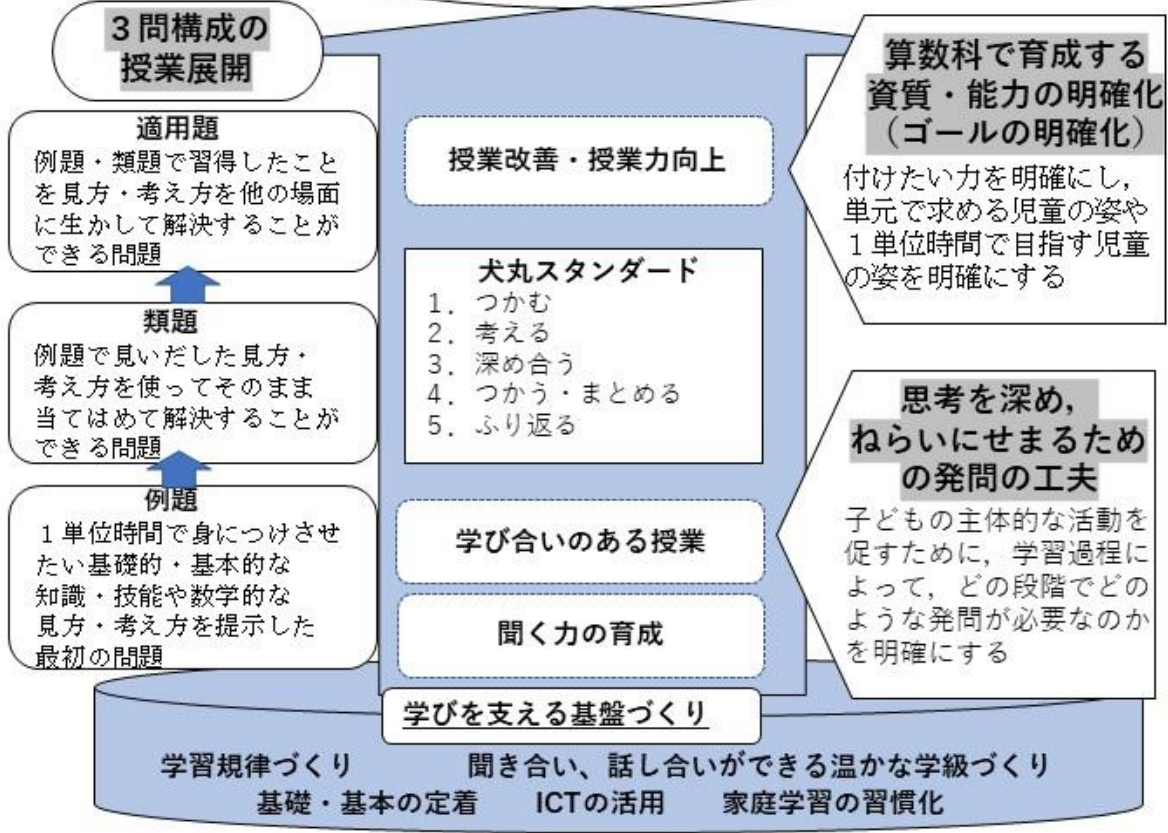
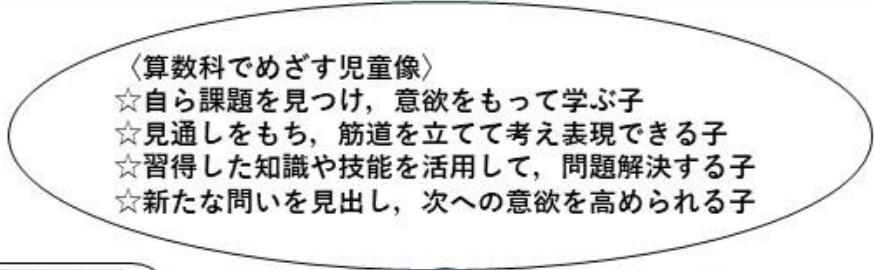
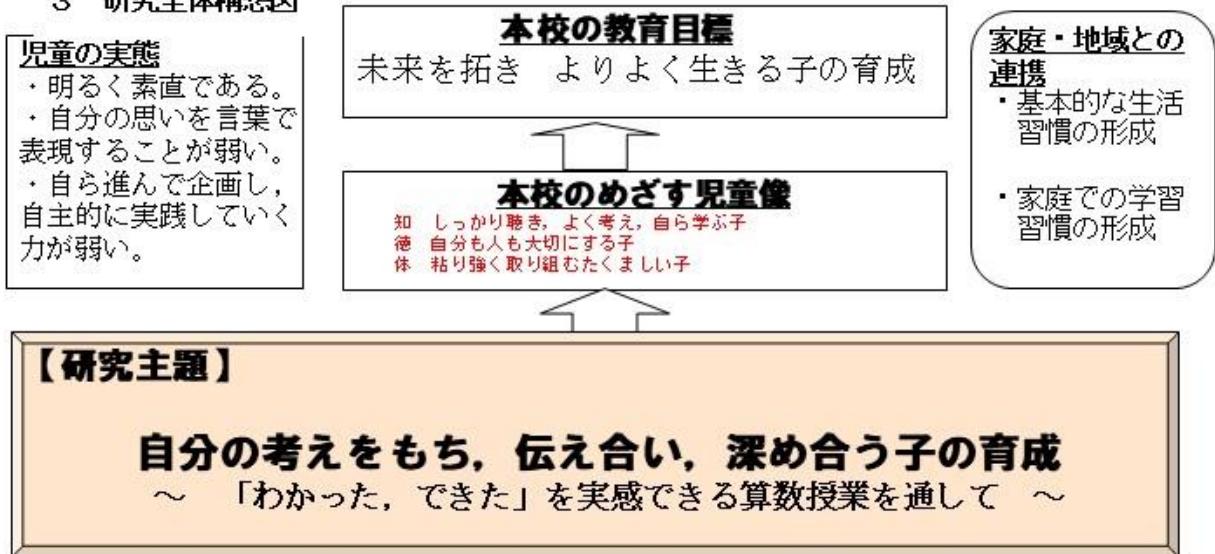
① 算数科で育成する資質・能力の明確化（ゴールの明確化）

② 3問構成の授業展開（例題→類題→適用題）

③ 思考を深め、ねらいにせまるための発問の工夫（問い返しやゆさぶり発問）

の授業改善に取り組んでいく。授業の導入をスムーズに行い、後半部分に焦点を当て、複数の問題に取り組んでいく。また、学習のねらいに迫る「思考を深め、広める」効果的なICT活用を積み重ね、児童が「わかった、できた」と実感し、主体的に学ぶとする態度が身に付くと考え、この主題を設定した。

3 研究全体構想図



4. 研究内容

「自分の考えをもち、伝え合い、深め合う子の育成」を実現する算数科学習指導法を明らかにするために、みんなが「わかった、できた」を実感できる算数授業を目指し、以下の手立てについて、実践的に明らかにする。

(1) 「わかった、できた」を実感できる算数授業

①算数科で育成する資質・能力の明確化（ゴールの明確化）

ステップ1

学習指導要領や、算数科基礎基本講座（筑波大学附属小学校算数教育研究部）を基に、本単元で「何ができるようになるか」を明確にする。

ステップ2

育成を目指す資質・能力が身についた単元のゴールの子どもの姿を設定する。

問題解決の過程でどんなことが言えたり、書けたりできればよいのか、ふり返りではどんなことを書ければよいのかを明確にする。

ステップ3

単元ゴールの姿の実現に向けて、単元の学習活動を設定する。

子どもの実態を把握する

子どもの学習の定着状況を把握する。
子どもの思考やつまづきを予想することで、全ての子どもがねらいを達成するための手立てを考える。

見方・考え方を働かせている姿を描く

何に着目して、どのように考えていくか具体的に考える。

ステップ4

本時について考え、学習状況を見取る。

問いのもたせかた、発問、教材・教具、提示の仕方、板書、適用題など、クラスの子どもの実態に応じて、子どもが主体的に取り組めるように考える。適用題を通して、本時の学習状況を見取り、次の指導に活かしたり、評価したりする。

② 3問構成の授業展開

例題 … 1単位時間で身に付けたい基礎的・基本的な知識・技能や数学的な見方や考え方を提示した最初の問題

類題 … 導入問題で見いだした見方・考え方を使ってそのまま当てはめて解決することができる問題

適用題 … 例題・類題で習得した見方・考え方を他の場面に生かして解決することができる問題

最初に、例題で数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能や数学的な見方・考え方を理解できるような問題を提示する。次に、提示された情報を本当に理解することができたのか類題を通して確認する。最後に適用題を解決することで理解を深めていく。

③ 思考を深め、ねらいにせまるための発問の工夫

子どもの主体的な活動を促すために、学習過程によって、どの段階でどのような発問が必要なのかを明確にする

学習過程	発問
<p>つかむ 課題把握</p>	<p>「分かることは何かな？」 「もとめることは何かな？」 具体的に 「おたずねは何かな？」 「単位は何かな？」 「数字は何を使う？」 「式は何算になりそう？」 「答えは？」</p>
<p>つかむ 見通し</p>	<p>「前の授業と違うところはどこかな？」 「これまでの授業を手がかりにすると、 どんな解決方法があるかな？」</p>
<p>考える 自力解決</p>	<p>「そう考えた理由を書きましょう」 「別の考え方はないかな？」 「別の表し方はないかな？」</p>
<p>深め合う 集団解決 例題・類題</p>	<p>「それは、どういう意味かな？」 「どうやって考えたの？」 「どうしてそうなるのかな？」 「どうしてそう思ったの？」 「この続きを友だちはどう説明すると思う？」 「みんなが気づくには、どこを見ればいいのか？」（視点） 「何を使って考えればいいのか？」（方法） 「この式を図で表すとどうなるのかな？」（置き換え） 「それって偶然できたんじゃない？」（ゆさぶり発問） 「それならこちらの面でもいいでしょ？」 「なるほど、これならいつでも使えそうだね。」 （ゆさぶり発問）</p>
<p>つかう・まとめる 適用題・まとめ</p>	<p>「今日の学習の何を使えば解けそうかな？」 「初めは解けなかったのに、どうやったら解けたのかな？」 「今日の授業のまとめを考えてみましょう」</p>
<p>ふり返る 振り返り</p>	<p>「今日の授業で大切だと思ったことは何ですか？」</p>

(2) 学びを支える基盤づくり

①「聞き合い，話し合いができる」温かな学級づくり

「聞き方・話し方のステップ」を活用し，指導していく。授業の中で，児童の良い姿を認め，価値づけていく。

ききかたのステップ

レベル8	きいたことにたいして じぶんのかんがえをもつ
レベル7	きいたことを メモ・しつもんできる
レベル6	はつげんを もういちど いえる
レベル5	はんのうする (なるほど、うなずくなど)
レベル4	しゅう中して さいごまで きく
レベル3	あてられたら へんじをする 「はいっ」
レベル2	はなす人を見て きく
レベル1	てをとめて きく
レベル0	こえをださずに きく


はなしかたのステップ

レベル8	れいをしめしてはなす (たとえば～)
レベル7	かんがえをいってからりゅうをはなす (～です。りゅうは・・・)
レベル6	ともだちのかんがえに つなげて はなす (～さんのいけんに・・・) ちがって、にていて
レベル5	じゅんぼんを かんがえて はなす (まず つきに さいごに)
レベル4	さいごまで はっきり はなす
レベル3	ききやすい はやさで はなす
レベル2	きくひとを みて はなす
レベル1	たって きこえるこえで はなす
レベル0	あてられてから はなす

②学習規律づくり

学習の準備，挨拶，授業中の姿勢など，学習規律を全校で統一し，学習に向かう姿勢をつくる。

犬丸小 学習の約束

1. 休み時間は準備とトイレ
2. ベルと共に「起立」の号令
☆ベルスタート☆
3. 授業中は立ち歩かない (ゴミ捨て×えんぴつ削り×)
4. ぐー ぴた ぴん で勉強
5. 使わないものは片づける 

犬丸小 がくしゅうのやくそく

1. やすみじかんは じゅんびとトイレ
2. ベルがなったら「きりつ」ベルスタート
3. じゅぎょうちゅうは たちあるき×
4. ぐー ぴた ぴん で べんきょう
5. つかわないものは かたづける 